

トマト食パンいかが



荒砥高の2年生有志がトマトを使って考案した食パン。6日の白鷹町産業フェアで販売する
＝同町鮎貝の「エリート思醇♡」

荒砥高生考案、6日限定販売

白鷹町の荒砥高（地主佳子校長）の2年生有志4人が、同町で栽培が盛んなトマトの規格外品を使ったオリジナル食パンを考案した。水の代わりにトマトジュースを使用したオレンジ色の生地が特徴で、具材としてドライトマトなどを練り込んだ。6日に町役場周辺で開かれる町産業フェアで販売する。

田優菜さん、小林愛唯さん、福士凜佳さん。現3年生が昨年度、町内のトマト農家の協力で取り組んだ企画を継承した。同町鮎貝のパン店「エリート思醇♡」（黒沢誠オーナー）に助言を受け、7月から放課後や夏休みに試作を重ねてきた。規格外のトマトは味に遜色はないものの、表面にひびが入っていたり大きさにばらつきがあったりして出荷が難しいことから、生徒

たちが無駄にならない活用方法を探ってきた。具材にはドライトマトのほかに、バジルや角切りチーズを使用し、豊かな香りとトマトのほのかな酸味が感じられる自信の一品に仕上がった。

先月26日の最終試作は具材選びが焦点で、角切りベークン入りとウインナー入りの2種類を試食。どちらを採用したかは6日に「食べてみてのお楽しみ」だ。販売は72本限定で、価格は千円。青木さんは「パンを通して白鷹産トマトの魅力を伝えたい」。沖田さんは「約4カ月間の成果が完売するように頑張りたい」と意気込んだ。（上妻大晃）

【来社】（2日）

▽米沢商工会議所の加藤英樹会頭、安部徹専務理事は新任あいさつのため置賜総社に。

あすの予定

【米沢】◇市議会臨時会は午前10時、議場。

【高島】◇ひろすけ童話賞贈呈式は午後1時、浜田広介記念館。

紙面編集・阿部春美